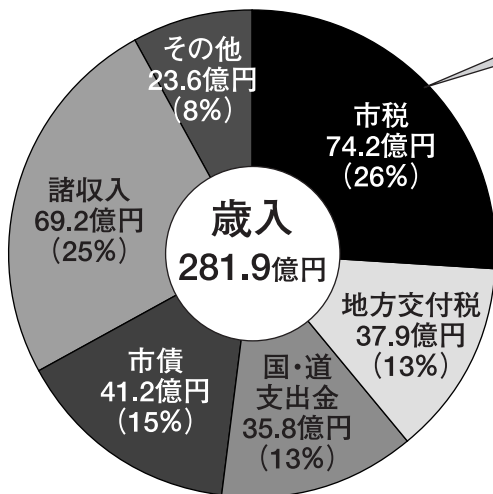


# 平成16年度 一般会計

一般会計とは、市の仕事を行うための基本的経費(例えば福祉や教育、除雪・道路整備などにかかる費用)についての会計であり、市政運営の基本となるものです。ここでは、平成16年度の一般会計についてお知らせします。

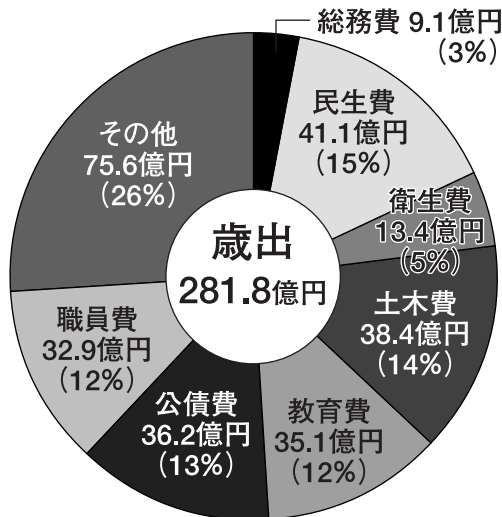


市税の内訳

固定資産税	39.0億円
市民税(個人)	15.7億円
市民税(法人)	6.1億円
都市計画税*	7.2億円
市たばこ税	5.5億円
軽自動車税	0.5億円
入湯税など	0.2億円

※都市計画税の充当先

下水道	65%
街路	28%
公園	5%
市街地再開発	2%



## もっと詳しく!

### 歳入

- 市税  
市民の皆さんが納めた税金で、前年度に比べ0.6億円減。
- 地方交付税  
地方公共団体の財源不足や団体間の財政均衡を是正するために国から交付される資金。国税収入のうちから一定の比率で交付されるもので、前年度に比べ2.8億円減。
- 国・道支出金  
用途を特定して国や北海道から交付される補助金・委託金などの収入。前年度に比べ9.4億円増。
- 市債  
国や金融機関などからの長期借入金の中で、道路や公園など長い年月にわたって使う施設を建設する場合に限って発行されるもの。市債を発行することで、建設したときの市民だけがすべてを負担するのではなく、未来に利用する市民にも公平に負担してもらいます。前年度に比べ8.9億円増。
- 諸収入  
石狩市土地開発公社運営資金貸付金収入など。前年度に比べ3億円増。
- その他  
使用料・手数料、繰越・繰入金など。前年度に比べ4.1億円増。

### 歳出

- 総務費  
総務、企画、財務、市民活動や国際交流などの行政事務や庁舎の管理のための経費。前年度に比べ2.7億円減。
- 民生費  
福祉事業や医療給付、国民年金事務などにかかる経費。前年度に比べ3億円増。
- 衛生費  
各種検診、予防接種などの保健衛生事業や環境保全、墓地整備、公害対策などにかかる経費。前年度に比べ0.7億円増。
- 土木費  
道路や公園、住宅や港湾の建設管理、除排雪などのための経費。前年度に比べ6.9億円増。
- 教育費  
学校教育、生涯学習などのための経費。前年度に比べ18億円増。
- 公債費  
借入金の返済などに充てられる経費。前年度に比べ0.1億円減。
- 職員費  
職員の給料・手当、研修などの経費。前年度に比べ1.3億円減。
- その他  
消防・防災活動や議会運営、農林水産業の振興などにかかる経費。前年度に比べ0.9億円減。

## 財政構造改革と三位一体改革の中で

平成16年度の一般会計における決算状況は、人件費の削減や、税金の徴収の強化を行うなど財政構造改革による歳出の削減および歳入の確保に推進しました。また、事業の見直しを行い、徹底した歳出の見直しも行いました。しかし、平成16年度は、着実に進んできた市の財政構造改革の効果が薄れてしまいうkraいの勢いで、国の※三位一体改革による影響を受けました。

具体的には本来、税源移譲と一体となつて行われるはずの交付税の削減が先行して行われたため、大幅な収入減となり、市の財政を直撃しました。また市税収入自体も、5年連続で減少するなど、歳入を取り巻く環境は二段と厳しい状況となつてきました。加えて、台風の大風や冬の大雪など、自然災害による臨時的な支出が多くあつたことから、財政調整基金や減債基金を取り崩して繰り入れを行わざるを得ない財政状況に追い込まれました。

この結果、市の一般会計決算額は、歳入281億8900万円、歳出281億7900万円となり、前年度を大きく下回る1千万円の繰越金を計上する結果になりました。

平成17年度以降も財政を取り巻く環境は大きく変化すると予想されますが、今後も一層の改革に取り組んで参りますので、市民の皆様方のご理解とご協力をお願い致します。

※三位一体改革 「国から地方へのキーワードのもと、①国庫補助負担金、②地方交付税、③税源配分の見直しの3つを二体として行う改革

市の財政を  
一般家庭の家計簿  
に例えると

市の決算を一般家庭の家計に例えて、決算額をより一般の視点に近づけて説明したいと思います。なお、一般家庭の家計における金額は、市の決算額を年度末の石狩市の人口(16年度末:56,278人、15年度末:56,034人)で割ったものです。

※市の決算額の中には、石狩市土地開発公社や石狩サービス株式会社への金利負担を軽減することを目的に、年度当初に多額の無利子貸し付けを行い、年度末に貸付金額と同額を回収しているものなど収入と支出が同額であるものが含まれていますが、下表では一般家庭の家計と比較しやすいように、そのようなものは収入および支出からともに除いています。

収入

(単位:円)

費目名		一般家庭の家計			市の決算 科目名
		金額			
		今月(H16)	先月(H15)	増減	
給料	基本給	152,000	149,000	3,000	市税、使用料および手数料、諸収入、その他
	諸手当	156,000	142,000	14,000	地方交付税、国庫支出金、道支出金、各種交付金等
	小計	308,000	291,000	17,000	
前月からの繰り越し		3,000	3,000	0	繰越金
貯金の取り崩し		8,000	3,000	5,000	繰入金
借金		58,000	41,000	17,000	市債
合計		377,000	338,000	39,000	

◆給料は増えたけど…

今月は、基本給・諸手当共に増額になりました。しかし、この増加は耐久消費財の購入に係る一時的なものなので、今後は先月並みか、あるいはさらに減額される見込みです。

◆貯金が無くなってしまいました…

これまで家計が苦しい月は、その穴埋めに貯金を取り崩していましたが、その貯金がついに底を付いてしまいました。ただし、特定の目的に使う貯金についてはまだ残っています。

◆借金を多くしました。

今月は、耐久消費財の購入が多かったため、借金の額が先月から見て1万7千円も増えてしまいました。

支出

(単位:円)

費目名		一般家庭の家計			市の決算 科目名 (性質別)
		金額			
		今月(H16)	先月(H15)	増減	
義務的な経費	食費	61,000	63,000	▲2,000	人件費
	教育費・医療費	37,000	35,000	2,000	扶助費
	ローン返済	49,000	50,000	▲1,000	公債費
	小計	147,000	148,000	▲1,000	
サークル等各種会費		55,000	52,000	3,000	補助費等
光熱水費		42,000	45,000	▲3,000	物件費
子どもへの仕送り		37,000	39,000	▲2,000	繰出金
耐久消費財の購入		70,000	32,000	38,000	投資的経費
家の修繕費		15,000	13,000	2,000	維持補修費
株式投資		9,000	4,000	5,000	投資及び出資金等
貯金		1,000	2,000	▲1,000	積立金
合計		376,000	335,000	41,000	

◆ローン返済の額が減っています。

近ごろは耐久消費財の購入を我慢するなどできるだけ借金をしないようにしているため、ローン返済の額は先月よりも1千円少ない4万9千円でした。

◆そのほかの経費も…

食費や光熱水費なども頑張って節約しています(食費▲1千円、光熱水費▲3千円)。

財政構造改革の  
取り組みから2年  
健全財政を  
目指して健闘中!

平成14年度からスタートした財政構造改革の取り組み状況を經常収支比率を用いてみてみます。經常収支比率とは、財政構造の弾力性を測る指標として用いられる指標であり、一般家庭の家計に例えれば、毎月決まって入ってくる収入のうち、食費、教育費、ローン返済など決まって払わなければならない経費がどれくらいの割合なのかを表わします。つまり、この比率が高ければ、自由に使えるお金が少なく、財政構造が硬直化しているということになります。

当初の改革目標としては、平成16年度までに經常収支比率を当時の全道(市)平均である87.2%(88%未満)にしていたましたが、実績は89.9%(減税補てん債※および臨時財政対策債※を除く97.9%)と、目標達成とはなりませんでした。

ただし、実際の全道平均を見ると94.7%と、この5年間の間に7.5%も大幅に増加していました。これは、道内の自治体(市)の財政硬直化がこの期間で一段と進んでいったことを示すものですが、石狩市は逆に当初の数値から見ても数値を下げていることから、財政構造の健全化についてかなり健闘している自治体ということがいえます。

※減税補てん債 国の減税政策による減収額を埋めるために借入する地方債(返済額については全額交付税で措置されます)。

※臨時財政対策債 景気低迷により交付税財源が不足しているため、特例として地方が借り入れるいわゆる赤字の地方債(返済額については全額交付税で措置されます)。

■經常収支比率の推移

